

「イエスさまといっしょのいろ」

マタイによる福音書 1章20～23節

聖学院中学校高等学校 聖書科講師 百武 真由美

『スイミー』という絵本をご存じでしょうか。小さな魚たちのお話で、小学校二年生の国語の教科書で読んだ方も多くおられることと思います。あの『スイミー』を書いたのは、レオ・レオニというオランダ人の絵本作家ですが、彼は『スイミー』のほかにも、たくさんの絵本を書いたことで有名です。レオ・レオニの作品の中に、こんなお話があります。ぜんぶひらがなで書かれた小さな絵本で、翻訳をしたのは谷川俊太郎です。

『じぶんだけのいろ — いろいろさがしたカメレオンのはなし』

おうむはみどり。 きんぎょはあかい。 ぞうははいいろ。 ぶたはももいろ。

どうぶつにはそれぞれ、じぶんのいろがある。（でも）カメレオンだけはべつ。

いくさきざきでいろがかわる。 レモンのうえではきいろ。 ヒースのしげみではむらさき。

そうして、とらのうえでは、とらそっくりのしまもよう。

あるひ、とらのしっぽのうえにすわって、いっぴきのカメレオンがひとりごとをいった。

「もし、ずうっとはつぱのうえでくらしたら、いつまでもみどりいろ、ぼくもじぶんのいろをもてるってわけだ。」

よろこびいさんでかれは、いちばんみどりのはつぱによじのぼった。

けれど、あきがくると、はつぱはきいろにかわった—カメレオンも。

あきがふかまると、はつぱはあかくなり、カメレオンもあかくなった。

そうしてふゆのかげが はつぱをえだからふきちらし、カメレオンもふきとばされた。

ながいふゆのよる、カメレオンは まっくろ。

けれど、はるがくると、かれはみどりのくさのなかにあゆみでた。そこでもういっぴきのカメレオンにであつた。

かれは、かなしいみのうえばなしをした。

「ぼくらはどうして、じぶんのいろをもてないんだろうか？」

「ざんねんながらね。」としょうのかしいカメレオンはいった。

「でも、ぼくら、いっしょにいてみないか？」

いくさきざきで、やっぱりいろはわかるだろう。だけど、きみとぼくは、いつもおんなじ。」

そこで、にひきはいっしょにくらした。

いっしょにみどりになり、(いっしょに)むらさきになり、(いっしょに)きいろになり、(いっしょに)あかにしろのみずたまもようになったとき。めでたし めでたし。

たったこれだけの小さなお話です。でも、このお話にでてくるカメレオンは、一緒にいて、同じ色になってくれる、かけがえのないパートナーを得るのです。自分だけの色を見つけられなかったとき、カメレオンは孤独でした。実はこのカメレオンは、年上の賢いカメレオンになってからも、相変わらず、自分だけの色は見つけられないままなのです。二匹になっても、相変わらず緑に、紫に、黄色にからだの色は変わり続けます。けれども、いまやカメレオンは、孤独ではないのです。共にいる、一緒に色の変化を経験し、それを分かち合う仲間を得ているのです。嫌だった色の変化を、一緒に楽しむ仲間に出会ったのです。

年上の賢いカメレオンは言いました。「でも、ぼくら、いっしょにいてみないか？」

同じセリフを語りかけてくださる方が、聖書におられるのです。あの、主イエス・キリストです。今日、お読みいただいた聖書の箇所は、イエス様がお生まれになることを、天使が父ヨセフに告げる場面です。天使は、生まれてくる幼子イエスが、「インマヌエル」と呼ばれると語りました。インマヌエルとは、天使が告げた通り、「神が私たちとともにおられる」という意味です。「神が私たちと一緒にいる」そのしるしがほかならぬ主イエス様であったのです。イエス様は、人間であり、かつ同時に神であられました。だから、イエス様がこの地上で生涯をすごされたこと、わたしたちと同じ世の中を生きられたことは、神が私たちと一緒にいてくださったことに他ならないのです。

実は、意外と誤解されていることですが、キリスト教の信仰を持ったからといって、悩みや苦しみがなくなる、とは聖書のどこにも書かれていません。イエス様を救い主と信じたから、幸せになってもう人生で困ることは何一つなくなる、ということもありません。キリスト教信仰は、人生の苦勞がないことを保証するものではないのです。信じて、相変わらず悩みはあります。イエス様を信じて、相変わらず悩むし、相変わらず泣きたくなることはあるのです。まるであのカメレオンが、相変わらず、自分の色がくるくる変わってしまうように、です。でも、あのカメレオンと一緒に居るかけがえのないパートナーを得たように、私たちはインマヌエル「神が私たちと共にいる」と呼ばれるイエス様と一緒にいることができるのです。だから、もうひとりぼっちではないのです。もう孤独ではないのです。だから、悲しいことがあっても悩みの中でうずまりそうになっても、心が折れてしまいそうになるときにも、イエス様と一緒に居てくださるのです。私たちを孤独という悲しみから自由にしてくださった方、それがイエス・キリストです。

クリスマスにお生まれになったイエス様が、今日もあなたに語りかけています。

「ぼくら、いっしょにいてみないか？」

祈りをささげます。

神さま、インマヌエル(神われらとともにいます)イエス様を私たちにお与えくださって、心から感謝いたします。イエス様が私たちと共にいてくださることを受け入れ、イエス・キリストを私たちの心にお迎えできますように。インマヌエル、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2013年11月27日 聖学院中学校高等学校 全校礼拝